



学術変革領域A

「尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」

2024年 ジェンダー学会議

1. タイトル：「ジェンダー概念をめぐる混乱を解きほぐす」
2. 登壇者：古川直子（長崎総合科学大学共通教育部門・専任講師）*
3. 日 時：2024年12月20日（金）18:00 - 20:00
4. 形 態：オンライン開催
5. Zoomミーティング：

* 参加希望者は、12月17日（火）までにGoogleフォームに必要事項をご記入のうえお申し込みください。

<https://forms.gle/VfhptLTJk3VAQ1fo6>

確認のうえ、18日（水）にZoomミーティングのリンクをメールでご送付いたします。



6. プログラムの概要

近年のジェンダー／セクシュアリティ研究は、分析の基本となる用語のレベルで混乱を抱えてきた。その影響はいま、社会全般に及びつつある。性別とはいかなるカテゴリーであるのかという点をめぐって、さまざまなセクターで激しい論争が巻き起こっているのである。現在の概念的混乱の起点は、90年代ポスト構造主義フェミニズムによる「セックスもまたジェンダーである」という主張にある。ポスト構造主義フェミニズム以降、性別を生物学的分類と見なすこと自体が生物学的本質主義として批判されるようになった。その結果として、セックス／ジェンダーの区分に賭けられていた洞察のほとんどを継承することができなくなってしまったのである。ポスト構造主義フェミニズムの主張は、なぜ当該領域の支配的見解となり得たのか。また、この主張が当該領域の理論的到達点と見なされることで、どのような知見が失われたのか。本講演はポスト構造主義フェミニズムの批判的再検討によって、当該領域における理論的混乱の乗り越えをはかるものである。

本研究はJSPS科研費、JP23A103（学術変革領域研究（A）「尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」）の助成を受けたものです。

古川直子*

長崎総合科学大学共通教育部門講師。専門はジェンダー/セクシュアリティ理論、S・フロイト研究。主要業績に「『セックスもまたジェンダーである』のかーポスト構造主義フェミニズムにおけるジェンダー概念再考に向けて」『ジェンダー研究』(26巻 2024年)など。